

お問合せ先  
OBARA GROUP株式会社  
〒242-0007 神奈川県大和市中央林間3-2-10  
TEL. 046-271-2124

適切に選別された森林からの原料を含むFSC®認証紙と環境に配慮した植物油インキを使用  
して造ります。



[www.obara-g.com](http://www.obara-g.com)

# OBARA-G REPORT

## 第54期 報告書

2011年10月1日………2012年9月30日

証券コード 6877

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。OBARA GROUPの2012年9月期における事業の概況等をご報告致します。

当期における世界経済は、米国・アジア地域における経済活動の軟化や欧州諸国における財政の先行き不透明感を背景とした経済活動の減速傾向などにより、全体として混沌とした状況で推移しました。

我が国経済につきましては、依然として楽観できない状況が続いたものの、企業収益や生産活動に回復の兆しが見られるなど、上向きの動きが見られました。

そのような外部環境の中、平面研磨装置関連事業がエレクトロニクス業界の需給調整の影響を受けましたが、溶接機器関連事業が自動車メーカーの活発な生産活動や設備投資による需要拡大への対応を継続的に展開したことで、当社の業績は、売上高及び当期純利益で前期を下回ったものの、期初計画を上回る結果となりました。

なお、当期の利益配分につきましては、2012年8月27日に公表の通り、通期の業績が順調に推移したことから、期末配当金を当初予想より10円増配の20円とし、年間配当金を30円(うち第2四半期末配当10円)とする案を2012年12月21日開催の定時株主総会に付議し、決議いたしました。



次期も依然不透明な経済環境が予想されますが、当社と致しましては、成長市場への経営資源の投入を積極的に推進し、顧客ニーズを満たす製品及びサービスの提供を行うことにより、業績向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、OBARA GROUPへの倍旧のご支援を心よりお願い申し上げます。

2012年12月

取締役社長 小原 康嗣

目次	株主の皆様へ ▶ 01	セグメント別事業概況 ▶ 05	連結業績ハイライト ▶ 09	連結データ ▶ 13	株式情報 ▶ 17
	営業の概況 ▶ 03	トピックス ▶ 07	地域別の概況 ▶ 11	会社情報 ▶ 16	株主メモ ▶ 18

## 営業の概況

### 連結業績サマリー

(百万円)

	当期(第54期)			次期(第55期)の見通し	
	期初計画	実績	計画比	期初計画	当期比
売上高	31,500	32,259	2.4%	31,000	△3.9%
営業利益	2,800	4,469	59.6%	3,300	△26.2%
経常利益	2,700	4,604	70.5%	3,200	△30.5%
当期純利益	2,100	2,718	29.5%	2,000	△26.4%
1株当たり配当金	20円 <sub>(年間)</sub>	30円 <sub>(年間)</sub>	10円	20円 <sub>(年間)</sub>	△10円

03

### 当期の連結業績について

溶接機器関連事業と深く関わる自動車業界では、日本・米国・中国・韓国系メーカーなどによる新興国での旺盛な設備投資が見られました。一方、平面研磨装置関連事業と深く関わるエレクトロニクス業界では、製品販売の世界的な減速傾向を受け、生産活動は落ち着いた状況が続きました。

当社グループは、このような経営環境において各市場動向に応じた拡販に努めた結果、溶接機器関連事業の日本及びアジア地域での活動が牽引し、当社グループの業績は、売上高及び当期純利益で前期を下回ったものの期初計画を上回る結果となりました。

### 次期の見通しについて

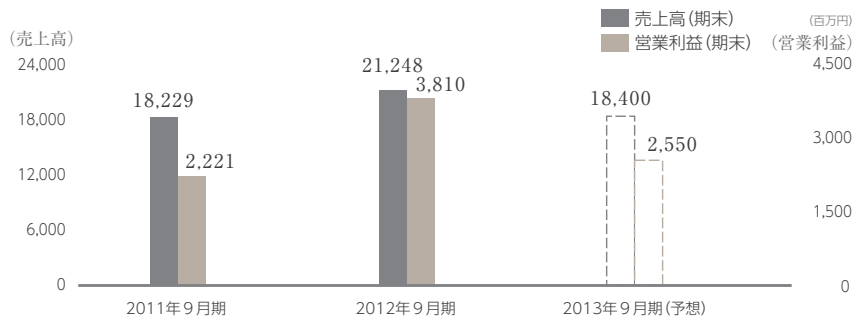
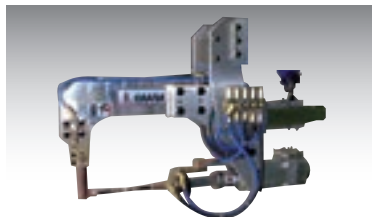
当社グループと深く関わる自動車業界では、引き続き高水準の設備投資が想定されるものの、当期に集中した設備投資の反動から需要の調整が見込まれます。また、同じく当社グループと深く関わるエレクトロニクス業界では、関連商品の市場拡大が世界的に鈍化する中、足元の生産活動については落ち着いた展開が予想されます。

そのため、当社グループの次期業績につきましては、当期と比較して厳しい状況にあると捉えております。当社グループと致しましては、成長市場への経営資源の投入を積極的に推進し、顧客ニーズを満たす製品の提供を行うことにより、業績向上に努めてまいります。

04

## セグメント別事業概況

### 溶接機器関連事業



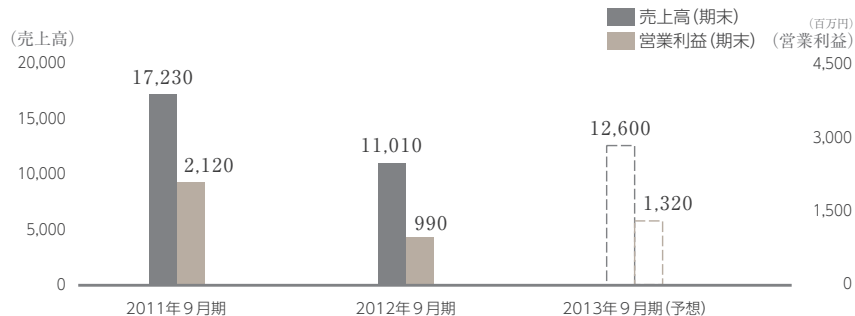
(注) 売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

溶接機器関連事業につきましては、取引先である日系及び欧米系の自動車メーカーを中心に、アジア地域などで積極的な増産投資が行われ、世界各地の自動車生産は総じて高水準となりました。このような環境の下、当事業として設備品の需要拡大への対応並びに消耗品の拡販に努めたことなどにより、業績は好調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は212億48百万円(前期比16.6%増)となり、部門営業利益は38億10百万円(前期比71.8%増)となりました。

05

### 平面研磨装置関連事業



(注) 売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

平面研磨装置関連事業につきましては、取引先であるシリコンウェーハなどのエレクトロニクス関連素材において、景気回復が全般的には足踏みする中、一部に回復の兆しも見られました。

このような環境の下、当事業として拡販活動を適宜展開し、業績は当年度内では改善傾向にあるものの、前期比では減収減益となりました。

この結果、当事業の売上高は110億10百万円(前期比36.1%減)、部門営業利益は9億90百万円(前期比53.3%減)となりました。

06

## トピックス

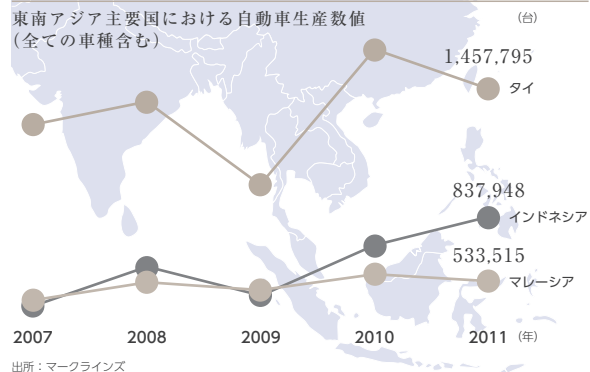
### 溶接機器関連事業／東南アジア新工場稼働

マレーシアにて、東南アジア地域への供給体制強化を目的とした新工場が稼働開始しました。世界経済が構造調整にある中、東南アジアの自動車生産は活況であり、経済成長率や人口規模に裏付けされた自動車メーカー各社の設備拡充が続いています。

当事業では、マレーシア・タイ拠点を強化するとともに、日本・中国・インド拠点との連携も進め、東南アジア地域での自動車メーカーへのサポート充実を目指します。



マレーシア新工場



### アジア・パシフィック地域の溶接機器関連事業拠点

OBARA JAPAN	OBARA SHANGHAI
OBARA MALAYSIA	OBARA KOREA
OBARA THAILAND	OBARA INDIA
OBARA NANJING	OBARA AUSTRALIA

### 平面研磨装置関連事業／製品紹介「エッジグラインダ」

平面研磨装置関連事業において、シリコン、化合物半導体、酸化物ウェーハなど、多様なエレクトロニクス基板に対応したエッジグラインダの製造販売を行っています。エッジグラインダは、基板外周部を所定の形状に研削加工する装置であり、これらの基板製造に欠かすことのできない工程の一つとして活躍しています。

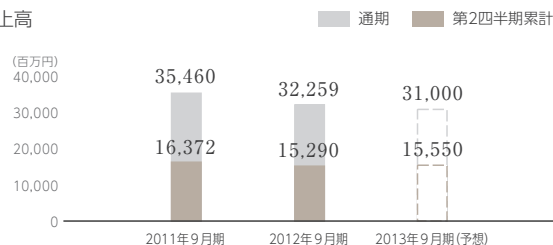
当事業では、平坦化装置に加えて様々な製品を開発することで、高度化する顧客要望に応えます。



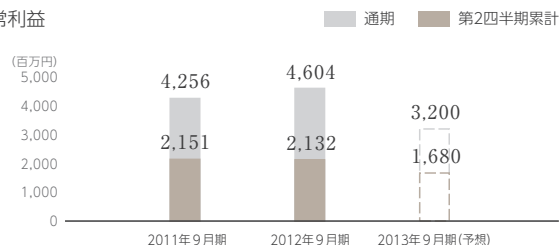
エッジグラインダ

## 連結業績ハイライト

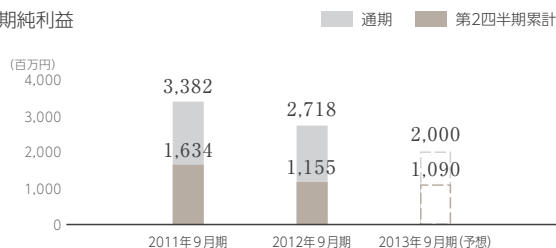
### 売上高



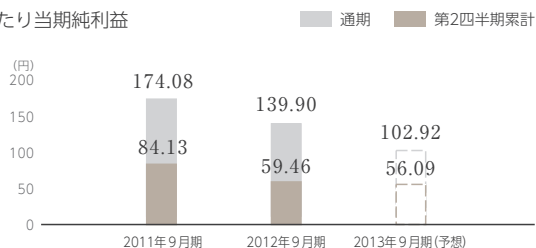
### 経常利益



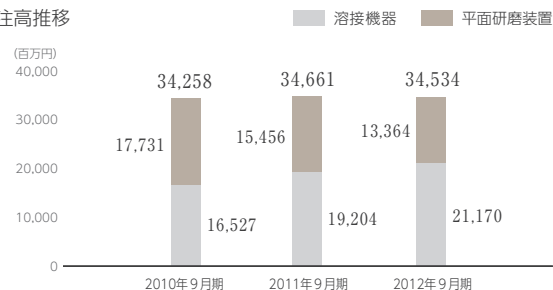
### 当期純利益



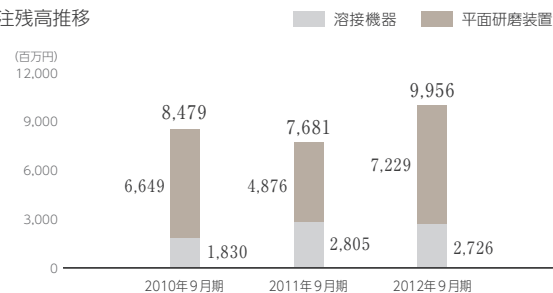
### 1株当たり当期純利益



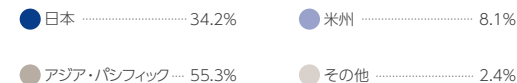
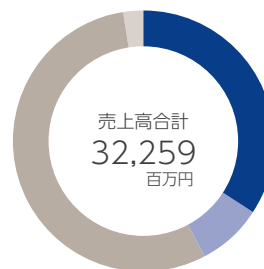
### 受注高推移



### 受注残高推移

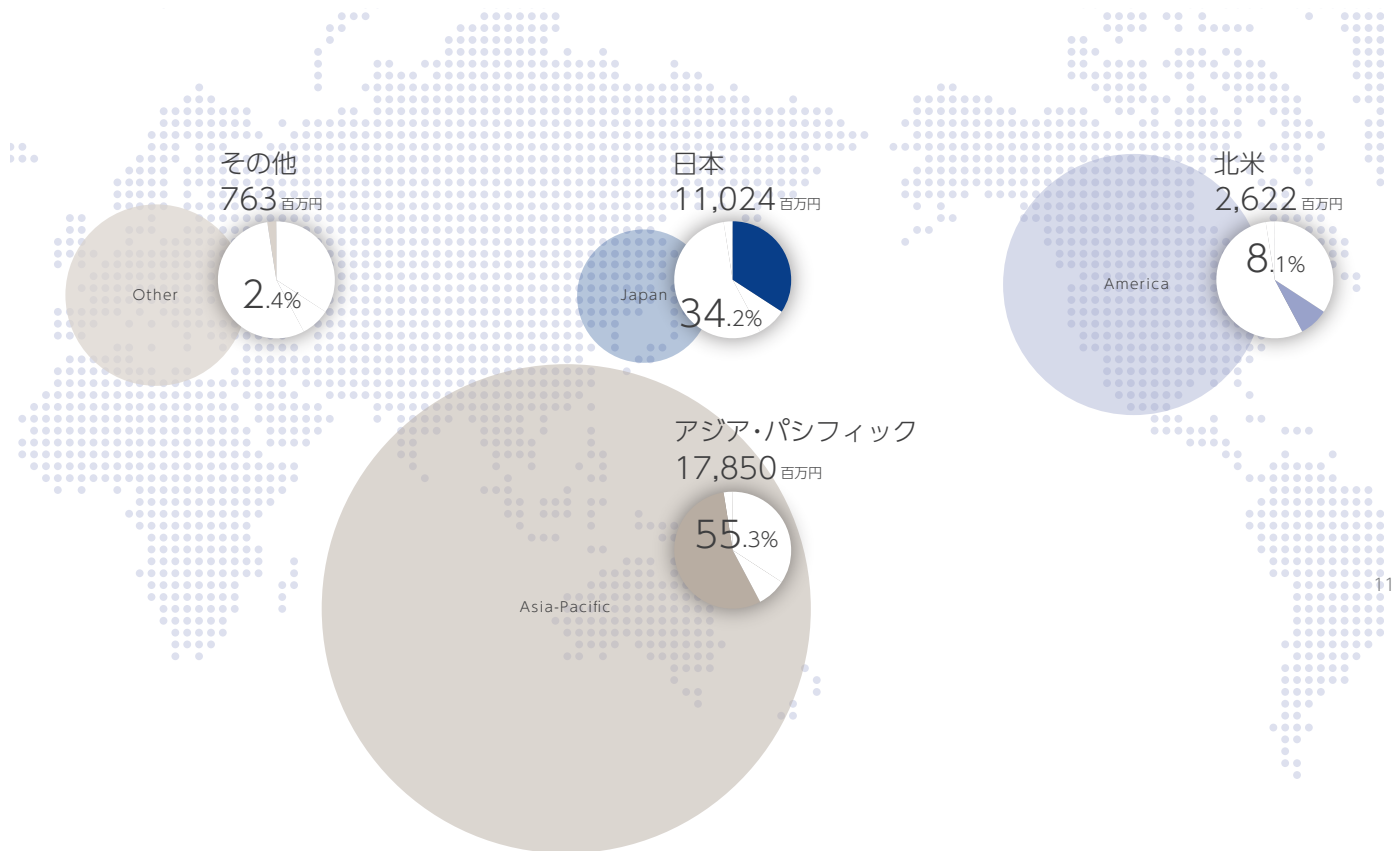


### 地域別売上高構成比

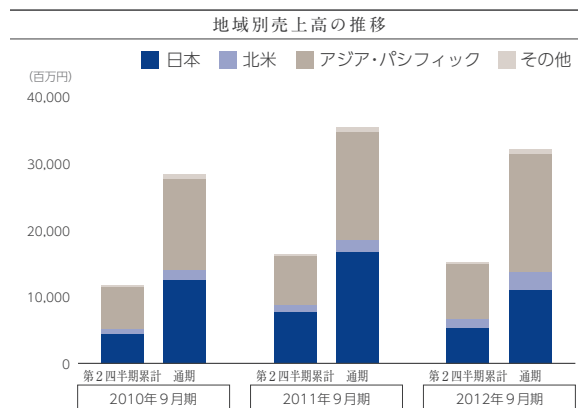


(注) 売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

## 地域別の概況



当期の地域別売上高は、国内が前期を下回る結果となりましたが、アジア・パシフィック、北米、その他地域は前期と比べ伸長する結果となりました。国内では、平面研磨装置関連事業がエレクトロニクス業界の市況調整の影響などにより、当期内では改善傾向にあるものの、売上高は前期比で減収減益の110億24百万円となりました。アジア・パシフィックでは、溶接機器関連事業が好調な伸びを見せ、売上高は178億50百万円となりました。北米の売上高は26億22百万円、その他地域の売上高は7億63百万円となりました。

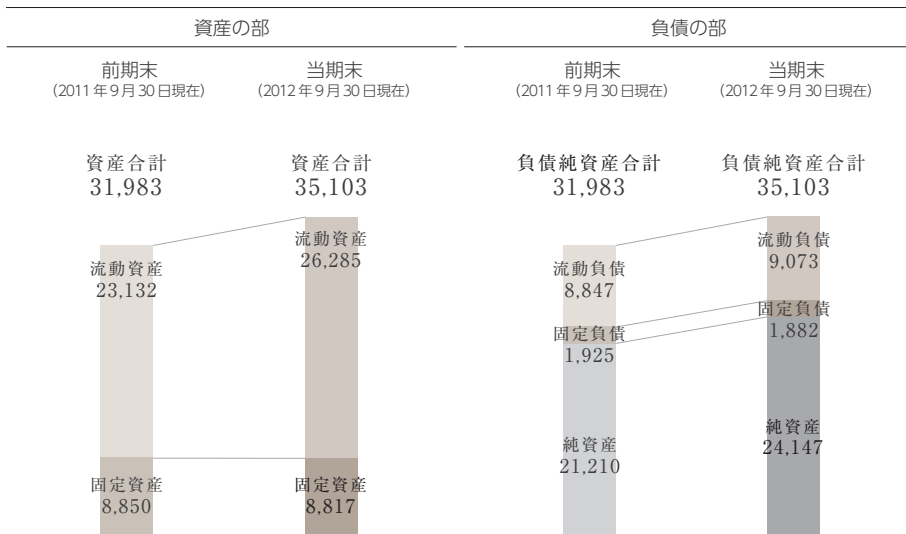


(注) 売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

## 連結データ

### 資産・負債・純資産の状況

(単位：百万円)



### 資産負債

point  
1

資産は351億3百万円と、前期末に比べて31億19百万円増加しました。現金及び預金が13億60百万円、受取手形及び売掛金が10億17百万円増加したことなどによります。

負債は109億55百万円と、前期末に比べて1億82百万円増加しました。支払手形及び買掛金が6億38百万円減少した一方で、短期借入金が1億16百万円、未払法人税等が1億29百万円、前受金が5億48百万円増加したことなどによります。

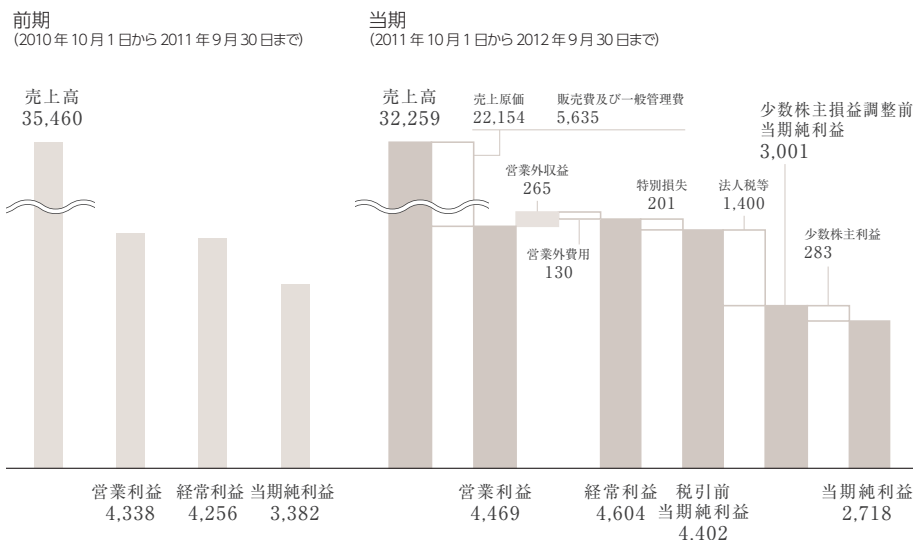
### 純資産

point  
2

純資産は241億47百万円と、前期末に比べて29億37百万円増加しました。当期純利益を27億18百万円計上したことなどにより利益剰余金が21億35百万円、少数株主持分が2億90百万円、円安により為替換算調整勘定が4億84百万円増加したことなどによります。

## 損益の状況

(単位：百万円)



### 業績概況

point  
3

連結売上高322億59百万円(前期比9.0%減)、営業利益44億69百万円(前期比3.0%増)、経常利益46億4百万円(前期比8.2%増)、当期純利益は、法人税等の増加や少数株主利益の増加などにより、27億18百万円(前期比19.6%減)となりました。

### 営業外収支・特別損失

point  
4

受取利息1億14百万円など、営業外収益が2億65百万円となった一方、支払利息58百万円、為替差損6百万円など、営業外費用が1億30百万円となりました。また、特別損失として減損損失94百万円、関係会社整理損失引当金繰入額106百万円を計上しました。

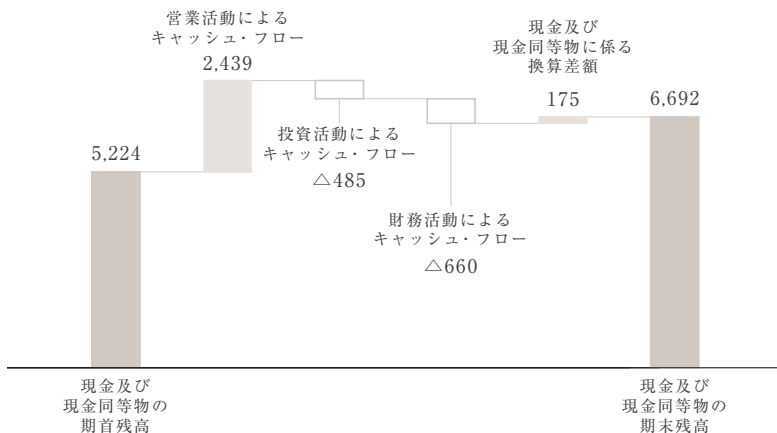


## 連結データ

### キャッシュ・フローの状況

当期  
(2011年10月1日から2012年9月30日まで)

(単位：百万円)



point  
5

#### 営業活動による キャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益が44億2百万円、減価償却費及びその他の償却費が5億87百万円、前受金の増加額が4億67百万円などとなった一方、売上債権の増加額が8億25百万円、法人税等の支払額が14億31百万円発生したことなどにより、差引24億39百万円の資金の増加となりましたが、前期に比べ7億69百万円の収入減少となりました。

point  
6

#### 投資活動による キャッシュ・フロー

定期預金の純減少額が1億4百万円、有形固定資産の売却による収入が10百万円となった一方、有形固定資産の取得による支出が5億86百万円発生したことなどにより、差引14億85百万円の資金の減少となり、前期に比べ5億25百万円の支出増加となりました。

point  
7

#### 財務活動による キャッシュ・フロー

長期借入金の返済による支出が73百万円、配当金の支払額5億82百万円などにより、差引16億60百万円の資金の減少となりましたが、前期に比べ10億94百万円の支出減少となりました。

## 会社情報 (2012年9月30日現在)

### 会社概要

商号	OBARA GROUP 株式会社
設立	1958年12月
資本金	1,925,949,120円
従業員数	22名(連結 1,648名)
本社所在地	神奈川県大和市中央林間 3-2-10 046-271-1111 (代表)
主な事業	持株会社として、グループ全体の経営戦略の策定・推進、グループ経営の監査、その他経営管理
ウェブサイト	<a href="http://www.obara-g.com/">http://www.obara-g.com/</a>

### 役員

取締役社長	小原 康 嗣
取締役	渡辺 俊 明
取締役	小林 憲 史
取締役	周 澤 健
常勤監査役	谷 内 博
社外監査役	大西 倫 雄
社外監査役	村 松 建 夫

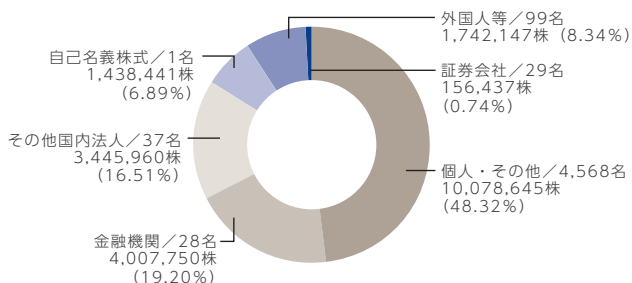
(注) 監査役のうち、大西倫雄及び村松建夫の両氏は、「会社法」第2条第16号に定める社外監査役であります。

## 株式情報 (2012年9月30日現在)

### 株式状況

発行可能株式総数	38,000,000株
発行済株式総数	20,869,380株
単元株式数	100株
株主数	4,762名

### 株主分布状況



### 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社馬込興産	3,253	16.74
小原 博	2,263	11.65
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,067	5.49
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	757	3.89
NORTHERN TRUST CO. (AVFC)SUB A/C AMERICAN CLIENTS	727	3.74
小原 康嗣	611	3.14
株式会社三菱東京UFJ銀行	369	1.90
小原 範子	304	1.56
OBARA従業員持株会	235	1.21
吉田 史子	218	1.12

(注) 1. 上記のほか、自己株式1,438千株を保有しております。  
2. 持株比率は、自己株式1,438千株を控除して計算しております。

### 株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月
基準日	定時株主総会の議決権 毎年9月30日 期末配当 毎年9月30日 第2四半期末配当 毎年3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。

株主名簿管理人	〒100-8233 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱所 (郵便物送付先 お問い合わせ先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-782-031(フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 全国各支店

公告方法	当公司公告につきましては、下記ウェブサイトに掲載いたします。 <a href="http://www.obara-g.com/">http://www.obara-g.com/</a> 但し、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告を行なうことができない場合は、日本経済新聞に公告を掲載いたします。
------	---